

平成20年度 和歌山県名匠

ぶん か ざい しゅう り や ね ふき し ひわだ ふき こけら おき
【文化財修理屋根葺士(檜皮葺・柿葺)】

たに がみ なが てる
谷 上 永 晃

【現住所】橋本市

【生 年】昭和22年

業績及び経歴

22歳から、祖父、父のもとで、檜皮葺、柿葺の屋根保存修理についての修行を積む。現在は谷上社寺工業の5代目として、全国各地の寺社の屋根保存修理工事を手掛けている。

檜皮葺は皮の採取、皮の加工、葺き作業の行程で行われる。葺き作業は、皮を1.2cmほどの間隔で葺き重ね竹釘で留めながら積み重ねていくもので、1日に葺くことができるのは、2.5㎡程度である。皮の加工は、葺き作業の倍以上の労力が必要であり、いずれも技術と根気が強く求められる。また、遠くから見たときに周囲の風景に溶け込んだ屋根のラインを美しく見せるため、ミリ単位の修正を行うなど、極めて熟練度の高い技術を要する作業を行っている。

これまで、熊野那智大社、那智山青岸渡寺本堂といった県内の重要文化財をはじめ、巖島神社(広島県)、室生寺(奈良県)、善光寺(長野県)など、全国の名だたる寺社の檜皮葺、柿葺の屋根を葺きかえており、伝統技術の継承、文化財保護に貢献している。

平成9年から12年まで、社団法人全国社寺等屋根工事技術保存会会長を務めるなど、技術の保存、後継者育成の活動に尽力している。現在は、文化財修理技術保存連盟(平成16年設立)の理事長として、さまざまな文化財修理の関係団体を取りまとめ、文化財保存事業の推進に取り組んでおり、こうした面での功績も多大である。

祖父の谷上伊三郎氏は、昭和54年度の和歌山県名匠表彰受賞者であり、その貴重な文化財保存技術は脈々と受け継がれている。